風俗文選

一ノ

へ5
5610
2

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

門へ6
號 5610
巻 2

南都賦　汶邨　鎌倉賦　許六
吉野賦　文艸　松嶋賦　芭蕉
富士賦　嵐蘭　湖水賦　李由
前麿山賦　支考　後麿山賦　去来

同俗文選巻之二

五老井許六選

東北大学附属図書館

○賦類

南都賦

汶邨

あ[illegible]より[illegible]なり[illegible]乃[illegible]ぶ[illegible]つひ三笠山乃麓なる光明天
皇。和銅[illegible]年の春奈良の文[illegible]より[illegible]山来より移さるる大宮殿六の佛寺
佛神[illegible]を[illegible]ゑんて。玉しいを輝く。若らよりの中[illegible]乃月日の文[illegible]
殿尾上の文鏡乃神の[illegible]の廣徳をよ[illegible]川[illegible]浮雲[illegible]
康[illegible]乃[illegible]と[illegible]。水[illegible]。[illegible]。東大寺の八幡。二月堂よ
若狭井あり。二月堂[illegible]湯[illegible]の八乃[illegible]
そでめ。大門の折[illegible]。源の[illegible]乃幕を張。興福寺を

七堂伽藍いとゝ栄たる山階寺と号し奉り
金堂。中金堂。食堂。講堂。鼓楼。経蔵
うゐして頂礼乃札を納め。東園堂よりハ〳〵乃八方を拝
をがゝ。花垣の庭を傾て。西金堂乃楽をあらく奏
南大門をうゐして。新乃能をそゝゞ。七度半乃使。雲客
乃猿楽をあし。面天ゝ乃紙を踏で試こ。夜陰ゝ乃新を接
く樊。保せゝ清乃手よ。名人乃号をとり。大倉乃色蓋
よ。遠人の名をあらゝ。次ゝ乃能。春日参詣
奈。素絹ゝ大衆の新をはくみ。くゝ大華表よはらゝ。錦を
巻く。夢のゝ中ゝ乃夫乃立合を兼。孫乃児乃期乃
陳を分。赤衣乃仕ゝを捧ゝ。大名馬。大名諸。大名
持。小名乃持。競る。流滴馬。色谷小。黛。甲冑。武等し。対よ
乃兜。清盛。源頼朝。公乃夫を指。関白代を東宮。一歩の色を
かゞ。バチヨ乃兜を徒つ。揺〻お殿をはゝ。ハイ生
乃神。ふゝの神。細男。お宝付乃楽人。トカヒ。拍子。伝
ゝ乃宮。花。ゝ乃宮。ゝ乃御幣。田舞乃ヒンバロ。五月乃宮。武
ちゝし。みゝ。五月乃色をさ。白ゝ。美乃乃
を孫。表。彫。葉。おの。家乃を。宮。の沢。の。
池。沢。沢。作。保。一位。二位。位の物。馬。表。乃。
乃。御。の。流。森。神。俗。分乃社。地獄谷。千。谷。鉢
。屋。大。し。面。ゝ。ゝ。井。板。流。ゝ。雅の
。ゝ。ゝ。ゝ

法乃池と深ふ。安無柳。良鞆板。夜泣の地蔵。文使乃地蔵。
奥ちか清ち。鬼乃ほ形浪よなぐれ。十五塚。とせつ井乃所
ほく。角寺。紀ち。般若寺よハ。大慢の文を原し。何ゝ一の弟子
そ。義仲の墓とゝ。ひ。こゝ衡ハ法華よ焼。れを永禄ゝ誌
を。後宗湯乃法をふひて。龍花院ハ彩とおこゝ。鹿魚系
伊勢の御ち晩ちとなゝ。柳。緑花乃碑を。紹巴乃
こゝとゝ。乗原磐。西濱石。京ちの。ものの
屏風。柳ま。乃。剣術。宮。乃。弾法乃十文字。清ち乃。
大。西大ち乃豊心丹。法。海味。力。鏡。ぬ。清。ぬ。
ん。ぬ。ゝ。ぬ。ゝ。園。鉢。雲。曝。世よ。ち。く。新。滝。中。徳。
ふ。京。ゝ。ち。紅。若。井。ゝ。奥。ち。文。孫。ゝ。新。曝。緑。ち。鞆。鼓。乃

[illegible]。[illegible]。[illegible]。

ぞ。よしなく。源を慕ひの法性こころのゆくよ。弱乃名とし。脇
乃時ゆへ。無道補使として。文武の御守りも。武乃
神器をかすめとるこそ。神慮をはかり。上位なれ。直方乃
上位にして。ハ。惜方。義家。義家乃。源氏代々。武衛
乃。忠なり。賤しして。曰。

三代乃將軍。九代の執權。其の発さけバ。なのお事。
柳。其こゝ。この。後。乃。罪。藤乃。罪。弁の。発。下乃。者ハ。
義。義。乃。遊。立。して。上乃。者。を。源。二位の。御。
家。相。者。〳〵。き。立。て。民の。〳〵。胴。少。〳〵。この。者ハ。こ。解。
天。こ。流。こ。流。て。杜。戸の。御。神。あり。多。合。乃。糸。ハ。お。接。入。乃。ク。
朝。乃。化。由。弁の。流。を。下。河。を。持。乃。月。が。差。を。射。流。

小袋坂。稲村。腐。七里。濱。脇。げ。谷。よ。ハ。腐。を。脇。て。扇。が。谷。よ。ハ。
伝。竹。乃。紋。の。魂。あり。脇。乃。手。ハ。糸。度。が。申。州。の。下。ハ。を。
し。兜。乃。関。て。ハ。白。菊。ぶ。れ。朝。乃。あ。と。ひ。乃。粥。竹。よ。を。
家。る。親。王。乃。を。うし。し。濱。竹。よ。ハ。者。低。が。源。を。捜。を。日
蓮。盛。久。う。首。の。庵。を。流。ぶ。と。う。龍。の。あ。と。大。法。乃。こ。ち。
仮。名。の。流。よ。ふ。と。し。み。貫。名。の。ハ。を。暁。が。る。よ。鉄。せ。う。脇。
長。長。院。よ。ハ。義。乃。髑。髏。を。葬。て。法。密。者。よ。ハ。粥。乃。の。法。
墓。を。築。く。あ。り。工。人。ち。こ。衣。よ。軍。法。を。流。定。者。の。ち。セ
手。和。方。を。流。と。紀。粥。坂。ち。が。ね。よ。名。ち。く。神。系。乃。年。
ち。粥。ち。系。と。ち。や。者。和。田。島。心。千。ち。ふ。小。源。ち。反。乃。屋。敷。龍。乃。屋。
浦。仏。ま。屋。安。ち。ハ。馬。ひ。や。し。濱。の。小。あ。り。ち。ぶ。う。和。流。よ。ハ。

をさそふ。花が谷。蛇が谷。楊ノ谷。杜鵑が谷。蓮生寺。
乳母ヶ岳。八幡宮。海福寺。石刻三尊乃大日。
松ヶ原。寂光の尼寺也。龍穴。観迦。決地蔵。深沢乃大仏。
長谷の観音。金洗沢。星月夜の井。稲乃下ヶ小ヶ原。
牛ヶ瀬が戒壇。とそ。小栗乃祝言。八橋。山ヶ法盗。
法ヶ。阿弗ヶ。ヶ明ヶ日記。こと。働像。碁乃紀行。雲乃
下。ま花を踏て惜。と。岩を山の間ま。能を待く。眺ま。
春寒。鎌倉川の月。雨の嶺。ヶ嶽乃雪。磯の春しら。感慨乃
情とし。鳴乃琴ち。怪山の猿を。鄙ち。美ねが笛。
いやしめた。府の業。螺ハ。寒ち。年ノ。廉相を。あて。苔。磨ヶ。海
老。紫明。ちく。ちく。魚敷。の類。あてうづきいと。白。あ。しと。ち。流

かーとうが。よハぬ日なし。名よしの地蔵ち。武相の境。し
二浦。金沒ち。じさしの地なり。湘ち乃。ヶ。ヶ。ハ西湘一望の眺
をさそ。孤人。ま。ハ。糸。恋沢。ち。を。原。恋。ま。の。ヶ。ま。
乃。松。金。沒。の。文庫と。ふち。称名ち。ま。あ。て。今。ち。な。し。辻
薬。像。善。賢。像。ち。く。梅。桜。桃。ま。ま。ふ。ち。和。ま。ヶ
ふ。ま。ヶ。ち。ま。の。二。梅。を。ま。ま。し。ち。ま。ち。ま。ち。乃
ち。金。ち。た。ち。く。廣。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
部。ち。ち。ち。ち。の。村。ち。町。と。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

芳野八景

吉野を古名とつかふる。是乃地なれば名わ。山川。里。嶺。こゝ。谷。尾。山の井。花園を始ゝ。すべて二十一代の奇勅三百七十余首。花の歌〳〵の集。あれ類。行遠。桃源のそゝく。ひ作川田長こゝがあされ〳〵。貞室老人乃これ。りしまぢ。がゝふ

中〳〵こゝまなりうんざれば。まわらこの吉野一ふ。おほいりう。ちぎみ乃。桃源乃所。まわ。桜。花の。まるとゝ。巻。法和尚。れ。ときなる。所の。ま。物。なわ。八。々。四。り。閑。まわ。ま。紀。の。わ。所。の。山。ま。義。ひ。大。寺。まわ。つ。ぐ。き。ゝ。桜。紅。ゝ。ま。ゝ。

なる。桜。ま。。藏王堂。ゝ。こ。ゝ。ろ。ま。置。一。歌。ゝ。ゝ。八。郷。と。ゝ。上市。まわ。ゝ。飯。見。ま。ま。わ。下市。を。ま。ゝ。ゝ。八。四。ま。わ。ぼ。。妹。背。山。ゝ。を。ゝ。ゝ。る。取。乃。城。ま。ひ。ま。ひ。ま。ま。の。桜。日。ま。ま。桜。西。乃。谷。ま。ゝ。ゝ。ゝ

蒲腰乃ふつゝ[illegible]の地なれ。[illegible]
[illegible]の靜り年の紫末をゝ納め。[illegible]乃[illegible]
家つゝ[illegible]頃交上乃[illegible]
不動。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]

ぞ。さくら乃春。春秋とゝ乃花をさぐ。ぞ。ぞ。花や
とも桜ぞ。理屋をつゝをぬゝこゝろみゐ神。

松島賦

芭蕉翁

とゝ。ゝゝゝ

愚にして。七紫仏蓙となる独り乞食。法華寺を海岸に
降老枝新をひさぎ。苦録波をひろう。雲の縁にまつわ
りゆく。枝条汐風に吹くゆえ。屋曲をいかりうち失
うるごとし。其気を宵越して。ちくや振神のむり。人山ずこの乃なりとさるとや造
化の天工ぶつまを知人ら紫をとるひ。泡をあさひ

富士賦

嵐蘭

和二ち日本の茅屋茅茅山也。むり茅霊みまを。山と
先て弧を。像福も山山より登りて仙茅を求めかくや姫
と神と化してらふ霊をとぶひ。茅ハ茅よりまて

根ハ西列よりまぶ仏道隠ハこロよりれ回りて。子孫
まとう絶をを野ハ東西より出して百里より はしなる。
形ちりまるるが如く。こるきうの小平より出一。根
陰より胆をかくやし。茅夫より雪をくるを山間より海を
ぶ。山とも玉砂を攀。和玉を紅顔をるることなく
二玉名ひと称して。義楚六帖より裏ハ先ちわ日本
武尊ハ。東夷をさつるきて。茅蘭乃ちをあらこ。
太刀ハ新名。ちれ物をありめて。牧狩をかの。
雪海の光を像成し仇名をとりぶ。完乃製ハ。仁田ち
茅ハ別ちなわ。十戸ハ。ちあ。ち部ハ社。再打ハ又
又字をとらへ。探幽ちこ。墨とちあくし。嫌ハ知ち

乃序よ。二流よりも拙。迴、拙よ怖ーまて。天
八すの号をとじむ。孫宮くの人い宮冠ー顔をつくみ
下向乃ちか紙の西をとるる。絶頂乃、鞍。寸脳の
雀。巣蒼ハ大心ーて。伊与乃雲じよおしー。れ雪
乃羽毒よハ。臆病よなりく。鞍のまる迴。海下海
苔。石亀天。富士耳中。弟ー黄茂。雲子。物。松。橋の本
形をくひ。陸鹿ハ竹の下鞍。根原ぐく。鹿ハを見橋の食。
横ぼーを乃鹿ぐく。耳の海に作夜ー。海を宿
巣をかさぬこ保清見ちの乃瓦鞍管れ。漁舎ー姿。
貝本。毒丸乃橋よりい。馬ー。人の首をめ乃し赤坂
坂の巣よち。巣地形窓ー鮮をさる。遠くち名

熊じをかざわ。ちりくち。系形取ちわなれび。
訪諏の湖ハ。側乃鞍を漫ー。男列の府ハ三川
巣ハいくて。扇の絵ちこ。なるべーぴーー。話
の連俳の句鞍。会をくこ紙をはちバ。大ちくはしの言
さハ比をびさ紙ど古今の間巣ー。一首秀ちち者
ち。系人の句妙なくべー。ち家をさしハ対ーく。
乃が一ーも及ばれ。巣義。富士吉野れ句一ちなーとる
東路ハ紙ちこ人ちかくなちわぐくまー乃海ハ心力を
費ー。又あづま路ハおもひ。ね人ちかくるこ雑き
富ちちハびーて。一ちを絵ちも。芸ー孫多ま
ちなるべー。

湖水賦

季由

○近江。もと濱海なりしを。大いなるよりきたりし人。近江に
はらわたをさいてを。遠江と号をとるや。位至十二代。
景行の都宮。滋賀の郡。近江あつく高宮穂高
より。行幸をこと十九代。天智帝。大津のみやより川を。
廢帝乃淳宮。保良乃都を。川近所に。定へ。
郡。保瀧潤澤。稔を信と得。春氣早く到。四
季。大よそ國と称を。仁皇七代。孝靈天皇。地裂湖
となれ。同時に富士山現をさ。神を不二と称定する。
近江人を先達とさぶむ。善賢一郡。己より流とな

て。今八なり。郡の保とは一村部なり。故に郡なりて。故四の
新郡に属を。同じ条吾。給。近江の湖海。神と大き
さ。こ。小二里。ふるもを。ふる。日本こ川。ふ。みこ称。ふる
おのく。地。湖。の。ふ。也。形。ゆ。くれば。ふ。て。真。名。に。ゆ。く。波
實。也。と。八。郡。土。記。ふ。て。樂。こ。波。や。丹。極。て。こ。ふ。文。実。
多。集。ふ。わ。は。ま。神。も。東。西。十。里。南。小。二。十。条。四。里。山。谷
乃。ち。ま。く。ふ。西。八。川。湖。を。開。む。ゆ。弼。丞。百。条。村。中。に。
大。小。乃。流。あ。れ。作。を。流。八。国。廻。一。里。寺。院。九。坊。天。女。
あ。が。ゆ。ん。元。岩。は。ま。ま。ゆ。の。神。事。あ。り。空。満。乃。秘。密。
封。し。。絶。政。の。橋。を。ゆ。く。し。た。。表。陽。八。は。ま。く。ふ。の。ま。こ。り
ま。ち。し。を。沖。乃。ま。八。沖。は。流。ひ。こ。ま。ゆ。め。。浮。へ。ま。ま。ふ

すなわ白石とゆうて。四石潮上ノ時。樹木一株ヲ採リ
奥の海ハ人家数百。あるいの表ニ生ス。積場。黒
山。島ばのハ海ばたら多ハ瓦葺ノ巣ハ瓦葺ノ巣ハ
平海ノハ。桃柳一あわ入。亀ヶ崎の二海ハ。仙台
乃中ノ海ハ。ひらぢ。ひらぢ四ノ。の。ヲ。ひ。ヲ。ノ。ノ。
吹乃新ヲ。ひ。ノ。ヲ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
千ノ。ノ。ノ。蓮ハ支那ノ。ノ。名ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
肥ノ。ノ。柳ノ大根。無ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
布。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
乃白石（是方解石也）伊吹乃麦ハ。麦ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。

種乃類。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
き。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
池の川。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
（是柴田勝家之製。軍中兵粮ノ助ニス。）端ヶ谷のチバン。（俗々朱家ノ墓也。其子孫ノ看農父ニテ今ニ存ス。）
天津ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
神ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。
人ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。ノ。

新羅乃社ハ源氏ノ大ノ祖ヲ祭レル社。今ノ淀乃八幡宮。豊満の神ハ幡等を
ちつ。宇賀野の神ハ八幡宮。井十四座乃座也。長柄山
のそし神ハ鎮津。長柄金山と申奉る。金徳乃宮神
多数ハ。金剛山ノ迹を。答すむ。平田山。鳴宮乃天
神ハ清水ノ祖也。流天神ハ。天満。長根。今下ノ宮。
玉造の神ハ。天ノ。この社家よりの社ハ。名を
神代ハ。はすとて。大酒之徳位。賜答の所也。
玉造社ハ。長谷也。山上乃観世音。堀川乃宮。
寛治三年。白川の上皇。清水乃地也。神ハ社佛
閣。金剛山乃深秘なる。地を移。今の小野

寺ハ図坐。あるとも。石山ハ観音。石ハ白瑪瑙。山ハ
黄金なり。皇朝金山の始也。二井ハ閻城寺。隣ル
名こるく。むしろ。なるく乃山。もよ。夫ハ。
延暦ハ。よきいはわ。寺。ハ閻城寺。さ。ハ。
かしこ。ハ。雲雷陽也。拾遺。西教ハ。天ノ口浄土。
寺。岩田乃。清水。雲ハ。高山。傍。の。千。
願。孔の。机。ハ。彫。也。筏。乃。不動。ハ。樟。飛。の。術。ハ。名
る。ハ。矢。孔乃。沈。義。寺。ハ。天。
阿。育。王。ノ。塔。を。ハ。光。是。所。謂。八。万。四。千。塔。ノ。一。也。平。流。山。
行。基。四。十。九。院。を。ハ。ハ。月。本。二。来。止。ニ。ツ。ノ。其。一。也。
神。霊。山。ノ。一。峯。ヲ。盗。ニ。湖。水。ノ。瀬。ニ。オ。ロ。ス。其。下。ニ。
隠。デ。石。ト。化。ス。今。ノ。荒。神。山。ノ。蛇。石。是。ナ。リ。

此乃一寺なれども。世人称して西陽の辻堂ハ。
一向世常の添ふして。仲時五十の遺去帳ならハ知るべ
畜生の形文よりかゝる神なり——。瓦海寺より下葉ハ。
道風乃書い頃。池辺乃八夫の絵ハ。金堂の絵也。山禁寺ハ。
作くし来道善が菩提所。コンクイ乃仏ハ白義とが作也。
般若寺般若院より。那波ら市が彫出をしゝむ。此寺より
後。練貫乃地。松尾寺より本堂ハ。飛彈乃匠が建て。
ゆゑ一の里に雲れをかゝる。尾屋寺ハ。大工寺の尾を
ほらゝせて。ゝ孫を山地より。今もあり。東西本寺
寺乃仲間。院家一寺の寺。清涼寺。龍潭寺ら禅
乃名場。窓より千巌ゆ宮を含ム。門より方丈の

とゝゞし。蔵山寺ハ。世より蔵乃寺と。芳蔵乃寺と。
也。安ら山拾見寺ハ。伝ゑの地。月本天皇ゆ移ら七重乃
塔と。賢ゝ。廣間乃各額。寺より。蔵ら乃ハ。
乃地山。すゑ乃ら蔵を地也。今涙の陳ら。左図秀吉ゆ。
の移神。坂本乃地ハ。明智光秀が作ると。神ゝ。張蔵ら
ゆゑ。神ハ。蒲生家より。ゆつる。ハ角京極ハ。作くゝ。
なり。稲毛三郎ハ。作神の。作と。知て。多々聖を。海——。賜
ゞ。獄の七ゆ。地ハ。海代より名を。拳くゝ。ゆ乃。近ゝ。
甲良乃。庄ゝ。ゆ。ゝを。坂本より。作へ。鍛冶の。貞宗。
ら。宗ゝ。ゆ。ゝ。名を。徳倉より。揚ゝ。信光。黒田乃。四
松を。ゝ。先。信元。改。事。今。菊。ら。山。ゆ。乃。義。也。すゝ。

所名所、一百余ケ所。於撰集ハ詠ずることもすくなし。
近江八景ハ。騒人墨客これを称ず。こゝに近衛政家公
の所をほめ給ふ。国中ハ山ハ高く水ハ清く。人ハ美
しく。ことばハ正しく。ものゝ風流なり。
一ゝ又茶ハ宜し。世ハ川魚ハ海魚の
なり。汐たり。海ハ乃ち海ともなり。
四年。法華ハ年九。唐綱。氣賦。菓カリ。作麩あさり。
是乃あつ物。ものゝ数べし。鯉。鮒ハ赤ガ石。ハ鮒乃
品類。鮒の中ハ。ひらたく右かたゝ。ふよいと白みをしん。春ハ山
吹の子をつゞき。秋ハ鱸。ハ紅葉をちらす。江鮭。鰐乃
名を変し。鮒。鱸乃味をとり。れ紀あり。魚と名

づけ。鮭ハ三家五十里を去ればとゝや。鯉。田鰻。和尓。鮎。氷上
郡ゝ近江ハ。さゝ内膳式云。田上ニ取。逆シタルヲ宇治ニテ取。九月ニ
不賀比。鮒ノカト。鱸ノカト。ヒヲ合テ。其歌トスル魚。結。小結。鮠。小鮠。嘴。幌。小鰕。石龍乃。
ぎゝ。鯉。鱸。小鰕。嘴。幌。小鰕。石龍乃。ものゝ。鮒。水鮭。山水鮭。
茶ゝ。川魚ハ相撲を好。和尓を大津百瀧と称ス。ハ
ゝ乃漁。津ゝ。漁ゝ。大鬼。小鬼。小鬼。ものゝ川魚を本
名和。こゝ漁。俗馬ハ川ゝ。ものゝ。殿軍ハ大石を積。勝ハ勝
他乃ものゝ也。肥付馬。不二舟数。棚なし。山海。堅田海。ものゝ乃ハ海
ゝ。赤人。淡上。ものゝ。ものゝ。論茶。ハ。乃。さゝ。ものゝ。
をつよドイテ。ハ。日和。ハ。ハヤテ。ハ。ものゝ。堅田。
伊勢。ハ。ヤ。世。ナガ。世。ナガ。世。ものゝ。サキ。ものゝ。名

して秋のころ日暮れ方也。根ざしは潮上の風乃
石にくだくるを聞て八溝の海をなぐさめ。野仏老人
八路遊筵と吟ぜ。美濃乃鶯と神をわらし心吹乃
清よくこゑるを聞方ふし。鐘花乃間を聞て。鶴
小鶯廉を出川を嘯て石を立て山をとりくしゃ王の
清乃郁をを敷ゞて八。新菓乃清浄を備へ住ゞ乃爰
咲てを藤堂家を花を捧ぐ。栗毛の馬八神
代乃沙法にして。花沢の花沢まを今も咲なれ。流灯松
を。已清乃。秋毎を光をあき大義乃面表を。星光乃
大を義ようりを作沢川八千余方石皆はしれ。
きて。年を貢を備ゞ大嘗会乃稲穂を奉るもの

山潮乃恋ひなるべし。

前磨山賊 磨山者九山也。在肥長崎。歌舞之地也。

支考

○七月十日ゆゑを二方みを乃功徳とゝや。海を女ゝの恋
とをきゝ。和清乃日なるべし。山津乃拙女ども。人もを
人もを乃ゝ祈むとよりを日ゝをゝをゝふゆをさ月遊沢
よゝんを記めをせゝ乃て。花ずをよ乃ゑびを合るを也。
ゝ。男しもあゝををて男ゆゝんゝ。さゝ八海
を乃世ようゝ祈ゝ。男をあゞゝゝと見る人八。浦の見
沢ゝんも。ゝゝみあゞなゝん。今をゝ。あゝゝをゝを乃ゝ
ゝを祈ゞ。たゝん乃宴篝ゞゝゝ。みゝゝゝれて。歌のゝを

みりんこうの事をおもくるまの売とつかふ事何心なく
して茶漬食なんとしてくる。雀乃花ゑん部くもすこしこんぢ
ひとりいきよりかなるあぐんの部くおもふものもなくひ
とりこれをいとこのつまよりおぼしらまくそう。

家むこ乃名ゝ一猫のまをむ柔どもと

後磨山賦

玄来

○十四日八日ちかふ紀ちうしあわてちう紀心寺小伴をうまむ
とてぐ乃柱女方乃ぷちうでちうなわ。庵生丹もへい
ぐふ湊ゑれば浦人ぢ乃きをさうちさ泥て松ぢのあ
ゑれて。蓄の家めうくがほう。波ア乃原の大ぐこ

咲ゑさ神てぞろ乃人を見い驚るくるりんそ穂ゲ年こ
ちゃうれは世をちきわ。清波よ若乃下よなくく。一ちく
ゆ。祈こおもくくむ人も有るべーとあらぬんさんれる人
ゑ祈てゑれーぷ涙ーぷるくるんしぐ乃。そのゲ乃ゆ乃ゆ
よ。松ゑくべーあそびもも。能波乃浦のあーさまほ
ゑ見ととと。祈さすくるよ有るものゑれ。ぬきゆーとのこ
あゑづわて。祈の商人も。ぬ鼠ひまくるぷ祈ーあり。
とうやかくるゑなどハ心ひいくるべ。ぷ年のほくこゑハ有
ぬつを。ゑ乗場よ。ぷなゑ祈の賦つくわくりと祈のあ
こ神て。祈よ。ほの賦ぢ乃ぬよ。くるわ伝わ。
いうはくやゆ乃傾除とかわまくう

鼠賦　去来
楊輝豆賦　毛紈
閑居賦　汶村
附譜
百鳥譜
山水譜
旅賦　許六
四睬廬賦　李由
招蒐賦　支考
百苓譜

五老井　許六　選

○賦類　附譜

鼠賦　并引

此賦汶三五ノ首相通假名字為韻ト

去来

鼠ハ乃名々よりも先ら黑。又ものとしてもっとも小さく、ちっぽけ第わ四天の鼠ら屬しづまりて大る物ハ六ス。ちいさ況ハすまうること。必撥の眼。小豆乃鼻。蚤々糸を曳き。小神も逃べく。耳ハまろ青のめうれ。似てい。尾をこそ引く雑のさやとなさばるるもの。背膳のそこよめぞ。うたくも濃も深出せわ。そ彷ゆ。夜ゆて居ら。ふ。ものよめすることを。ものとしてものを喜ぶ。ものとしてものを

ひべきこゝろあ一ゐるも。乃職を捨わて日。

○二月嵐の穴を塞ぐ。ぱくし油がゆくつもをおゝ。

荒て人をおきゝ。ハ。乃うゝ疫病おこう。油をの世

ゆ。世の酒をひゝ。れと。ゐ。ゝ。酒酔をつゝと。要を

重。。。を。ゝこゝ。ゆ。ゝ。ゝ。ゝ

はぐしめがそうを四へぷろみの神よ降りまして。位高い神
ひろごを百敷乃加こ記もぷ母を むくて。年ぢ號ぢくさこめ
まぐろ。ぷりしむの玉きくく神ぐぷ乃日の沖賀あわぷ祭
とりてこぷづき乃也前の侍へなぷ。かくの日ぢ十。敬こもう失
乃。海原やこそ日の能よ安なふる角て。海嵐しかく神
麻呂のてたむが子朱丁書こふ鄭て。四嵐の化りくる也
烏羽玉乃闇さ 夜ぱぷくづちともな神乃。象と山原
歎すこぷが川 恐懼めく。麝香嵐を筑紫よ伝な神て。
赤こ盛よ行をぷかづよ赤れころやくなる八。嬢入ぢ繪麗子
ふぞむこと乃ぢを七郎とハ中ぢ。新左衛つとつきるハぢく
やむすりて乃ぢなれべ。大ねく少ぢく。將共四嵐

名乃ぢ乃ぢ十二の子をうしぷ。彼が家よりさりはく
ぢ乃ぢこ日ぢ出く。福の神よりやぢせうまむめが屋里
ぷづく乃ぢこぞや。武義ぢく嵐完よりや。お羽の浸乃嵐
が関なるぷ。伝法の奥ぢ嵐宮なる。ぷ関おなぢ乃をりて。
加乃神乃世祝ひさぢ。ぷ。なぢ。ゆくくんぢとおぷ。
寒ぢ嵐りつて猫と嗤の志ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ建乃ぷきぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

又物しハ。皆桃偕乃情なり。奥羽。白川の西極所
と雲神。奥羽の石を踏んぐり。こる銘乃甚多し。其
ながこと を発ち。あつこと山乃々涼よハ浜浦と海
め。作法と横こと天乃川よ。鉢盤乃被とこ白波。
そ称ちわ路乃三見を流つとて。七百二十余程と称
ど。西こうんが長磐乃力量ハ感じて。一法の領と称
く。風海を重さ。ひこひ芭蕉庵をとしく。絵乃
雑作と乃ぶ時。平よ旅十軒の絵と叩きて。頃じて
何人菓の求めと来ど。そこ風雅よ乃わ。俗社とあ
つん。犯賊と殿とお次。あ引りこ奥乃細石。ま
拉乃類よハ。

「旅宿のさ面。上段よ書院。床。襖。衣すし。たのあ沢
お雄ーやぐーの付く。門口乃入湯桶。ふ山て長こわ。
庭よ。ぶ物のさ乃ハ。表べのおまもりぶ。出女のそ
物ハ。長柄をもっど。根太板ハ。ハ長て。隅じ。ま豆そ
ず。天井襖。面ふ。ふさハづよ。浅紙。いっく。紙
そ。もん屋乃ぶとつみ。よ姫こわ。蒸貴。京麓こ
ぶ。ま。ぶ。ぶ。ぶ

乃づまの上ゆいくと。拍改めの胸ばらくとさらと。かる蕗也
くとさらてさ。馬さくとつりと合。一僕乃次よさから我
祝めまいく。鶏乃ありぬよ。つ是の男と紀く。地方しな
くて。和歌をもりをもの拍とく。入湯の一番よ入こ後
何乃おそや。はえの拍年よ面のはらくとしふおこ。
世流やさけなよあきこ後旅の宿としつ白もこ
信ちかたんつこ。
海乃の宮ねこ。餅酒のなきれもなく。磨汁餅の
餅とさらば。恵年篇まいふてつくきり祝つくとこ
こ。寒そこも冷まふ麺をまひるいお乃年屋鰹た
乃ほりくとくさらば異性也。卵さの巻めきる。

木年乃稼。れ紙ハ行まとさみ。祝の着板ハ巻をけ
さらり。昆蒟乃四ふハ。何のはく冷きこで。
手ちけこ春乃密樽や宮はの山
舟川のこるかる義の拍。ふバくかこ人こ。ふ月ア
大乃もかわ信乃ま歌ふ也入。おのゲまはらアハ流るまこ。
首ゲけ乃信祝を紬くて。ふゲうを息をはゲこはハ。
鴻田金谷の賊なわ。ふ乃深深を何名けとおこ
こるハ大きなる海落也。天流の中ハ激ハる人を完
まはまふ。ふ人を服ゲけ入て。荷を肩ようけて。あゲれ
こはらを顔きふ殺くて人舟揺ようこ。四れが法ゲかこ
きるハ。法くハ嬉の拍也。る去かる竜舟を。歌こて日。

月を送りて。一盃乃酒よ。清泉の氣をやしなひ。一生
を深く觀ずることすなはち。雲霧の
日も。雲月乃あしらも。桜乃手折りよ眺て。暁の秋を
鄙。淋しく欲次を。花ゆえ。ひとりぼっちの会
を。惜しき。小夜ちどりしみじみ。吸ひつくの裏こころ
を。待ち耳の穴に納め。合い犢鼻褌を結ぶ。一とせの名
孫を。言て。世にある人こ乃こぶく月日を出発せ
ずと。宮めるるハ。世とやもうとる人。も仏わ。

出女も知らぬ。恋中年一乃芳
流浪深沼のごとく。哀れ。独
筋をよ。宿をかし。銀門。取よ二家ハとめ。

乃。霊。久。言。清。ふ。ま。ち。ば。ち。ち。布。
して。ぬ。ら。ら。ね。と。焼。ち。ま。ま。
ち。ね。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ち。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ち。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
乃。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
中。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

何ぞ此いひ伝へる人といふ名もとなりけり也。是は乃
辻堂の前よりみて田行の部を隔て隔田
川乃名佛を尋て。[illegible]
古淵の人。孫惣乃情を尋て。[illegible]
触肉ハ白川乃河をとみく二きびみちのくにおもむき。
和二郎乃二句を求めて。すこやかにあるよ。[illegible]
[illegible]老人。[illegible]海乃つすでもをしね人乃。[illegible]
[illegible]
[illegible]。

揚揮豆賦

毛紙

赤小豆賦ハ。一ハ俵ハ納ル。二ハ仁川とあふて。是ハ[illegible]乃
仇名とれ。神[illegible]乃粥ハ[illegible]ハ癖をなを[illegible]。[illegible]月の[illegible]牡
丹餅。[illegible]ハ名月と[illegible]ハ[illegible]。今[illegible]乃[illegible]
[illegible]。[illegible]ハ人[illegible]。[illegible]乃[illegible]
名を[illegible]。[illegible]乃[illegible]
[illegible]。[illegible]乃[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

おのれ行を見すれば情を述。從見半者。不死酒の石ち。
ゆるしの門はこゝにまわるべき路をたゞすぎあやま
り行よりも先に張敵の糸ようなるものが中の乃
一切の遊なわ。樂しなれば大きよ始ていねよ迷ぬ
ゝ世間きよりく。ゆくゝ懐紙を持ながら。紙乃新聞
を見ゝわるゝ。うるかゝ小豆乃五分別うおりゝ。

梅庵賦

僧李由

○悉を怖ま主ゝくゝ付を。窩高よ行所し。氷のなれ用んとて
岩窟乃下ゝるゝ所ゝ世もあるよ。廟よ孫庇を家
し。下則よ志ゝ家をつきて。氏乃竈の振ひゝ注ゝて
あゝ紙。堅田乃窟の舟よ主ゝとゝ。こ。今ハ稽乃下ゝ
ゝを見ゝ主ゝ。芋ゝ巣のやゝ。鳥の巣乃如ゝう
ゝ。皆おの絶ゝ。ゝ中ゝ得ゝ手。おゝゝ。ゝ。乃
巣と呼ゝ。蕪乃ゝと。ゝ。螺の渕をゝて。四根の
梅をたゝ。頬白の家をかゝ。ゝ。病鶏が
塒ゝ導ゝ。鳳凰の厩をゝ。ゝ。凡る乃鳴ゝ
ゝんのをゝ。ゝ。ゝ。鶏が逸雨乃雷と吹ゝ。ゝ。心
ゝゝ。ゝ。一日ゝ。閑居と。ゝ。ゝ。半ゝ。全
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
抱乃貝の中ゝ造化。業樽乃蓋ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
風雅乃友ゝ。入乱ゝ。廣ゝ。奇屋ゝ。家をゝ。ゝ。

別乃和歌ハ会ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

閑居賦

汶村

○居ハ乃面の衣ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

人取乃茹を煮らるを。竈を下まよ丹を湛へ。こるさ下ゑ
亭伏築く。琴と味線乃矢ぷ。ふ高浦傷の曉傷宗
乃職を賞し。行人ゑ是をとぶ。粉白く黛翠
なるも屋をつる紙。芳廣く神無きそこ高を
光ぶ。牡丹芍薬ふ教会を重し。藤鉄海石と題を
つふ也を。伽羅八文字を人て数ふ。燭八金津を
をて。月の光を奪ふ。或ら地蔵枸杞子を雑て。花よと
はくの八又を瓜茄ほを仏くバ百乃店よ和を多新
乃信尾を傷の生業を弾らを。雑類の菓物ふ。陰乃
業月を実ら神ら八茄も彼清水の高瀬と名を回
トらを也や聖人ふらを中あ。ふ人閑居して不善を

なんとハばつ事ゑ乃ゑ酒しなれべし。

招竜賦

文考

つ事ゑ吾前の魂あり。行てゞ乃ゞくよ内事ゑ。ふ神ゑ月十日あ事ゑ。ふ南乃四事ゑ門人
あをゝ。ゆゝ也ゝ。ふ張ゝ。ふ。ふ高さバ手どり内つを事ゑ
ゝ。ふを神かへつを事ゑ神ゞ。ふ門ゑ事ゑの花ちゝバ
敬ることを別をゝ。ゝ。ふ。ふ忘ゑ毎の月ゑ事ゑバ。ふ
倣ゞゑ内ゞ。ふ神ゞバをゝ事ゑ。ふ内ゑ和ゑ世ゑ。行ゑ和
乃ゑ和ゑ和ゑ神ゑ。ふ世ゑ。行ゑ和ゑ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ
春の居乃行ゑ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ

こよひらしてうゑるふるみ〳〵ぬ。屈来神〳〵。黒孫じ
しを者とおもひぬ。蘼蕪乃香ゝや衣ふこりゝじ。
ちてゝむ所の物よりはてよぶうりばなどかゝてゝざゝ蕎。
魂すこ四ゝん遠来まき。あ蕎物ハ比ゝ所あらぢ。
をきむこかれ蕎麦切ハ。字ばの山乃れ細さ様ハ
あゝ稼ど。世とゝ一のんゝ乃まざれバな事。豆腐と
東をれ乃ちゝ。昔ハ蒟蒻ハ是ば乃家れ名ゝ長人
ぬ。かで世の人れ風味ハ。あゝりゝんや。魂祷乃事
とふるハ菓子〳〵ぐ〳〵ぐ形乃歩を抜くゝ乃ハ酒文
ゝみぐゝ也。香ぬ乃さバゝなゝ蕎や。嘉ま乃ハ物乃ハ来
きぬとゝゝ。あ伊ゝ乃ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ

ひゝ世ぬゝゝひぬ。ゝ乃動ゝとゝ乃神て。山乃よ也ゝ。長
等乃ひ乃小病ゝぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ
て。忘ぬ乃ちびゝ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ
乃ゝ。花れ鹿のちきゝゝやハゝ千神ひ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ
ひゝれのゝゝ花ゝ入ひ乃ゝ乃ゝ神ひ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ
世田乃。秋の和ゝ乃ゝ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ
俗ゝ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ
器ゝん。名のゝゝゝゝゝん。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ
あゝりゝ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ
ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ
乃ゝ乃ゝ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ。ゝ世ぬ

そ。人乃ふあり。さらハ凡夫の情(スキ)ハ、地獄ハそこ
なるそ。されハ凡夫の心ハ、なるゝ義さ雖ども
阿陀かとけ玉ふ事ハ、てゝと平ふとゝ思ふおかせど。
凡夫ハ、ものの是非(フキ)なるゝ心ハ、地獄ハ色のこと
ゝりて。極楽花のそゝ木ハ、おいそ。船を宮玉
人ハ、そこで世の人ハ、花のそゝ人ハ、ひとすゝむ。そもも
けそゝふんも高ゝ。志ハ杜国凡夫ハ、ともひて。
闇(ヤミ)同(ヒ)行ゝ。故山乃義格まで、よ有之ゝ乃ふん陽ハ
まゝゝ。それど。十と勢あり。われ門弟の義ふおゝ雖ども
ゝそ雖もんゆゝ。不あり。おなよふとゝ思ふゝ
よ。雖ゝ。ゝ。ゝ。

○譜類

百鳥譜

文考

○鶴ハ仙禽ヲ以テ世ニ貴ブ[illegible]人ヨリウカヽ[illegible]
陶淵明ノ[illegible]慶の[illegible]ありトいへ[illegible]
ガ風流あるヿをもとゝ[illegible]
ひゝきわゝ[illegible]門乃月[illegible]
[illegible]日ヨリハ[illegible]
衣裳ヲ[illegible]
なゝん[illegible]
ヨやをおり[illegible]

雄はの峰等ちいとしこ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
あらんといふ神て。一朝ニ[illegible]
[illegible]信が[illegible]乃ち[illegible]武を[illegible]
蒼鷹乃人をたゝれしく。眼の内ニ[illegible]
をう[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]。さ神ど一歳ニ名[illegible]
世の人ニ神ニをゆ[illegible]
か乃年齢が[illegible]乃宿ハ藤をいくしニ[illegible]ば大鵬[illegible]
[illegible]乃万里をうゝやさ[illegible]
のうゝてかゝゝびうゝ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
稲屑[illegible]

ぬ[illegible]ぬ[illegible]。[illegible]と[illegible]の二[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]。[illegible]鶴[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

さて花一さかりもあるべし

こゝに八幡は明田堂といふなれば山もあるべし

八わやゝ仏像と深山もあめてこゝろ地なる

毛をもこゝろとしてうハ毛たつるあめ

ふるさゝ世さうる先ゝさらるまさゝ提壺乃義演を

かひ布穀乃穆をぬきしいのみて。ゆきをの秋がゆへ

秋ぞ。世の人ゝ。ゝしひるをとゝ。蜀魂の不如帰と

啼ぬきハ人て抵掏の琴なゝ。ゝ

秋の月ゝ江夫よゝ秋ぞ。ゝの暁乃雲ゝ

ゝさゝ人ゝ。月ゝあり秋ゝ。ゝと。ゝ八出ゝ。

鶯ハ恩をゝ秋ぬゝ。ゝ。ゝ秋ゝ

ゝハ。ゝ。ゝ。ゝ

なる時はらあんぱの法師乃。宿うしをくしてはきわ
しり。孫村より出く夕陽を呼び畫を付。祖乃家より今
宵もおつんと。いぢきるよ変もおもひ出くなるし。
鶏鳴とハ名乃なしこれとの也。まるまるの言の葉ーち
程まる乃 魔をおどろかしー。黄昏の時の事しよハ。孤人の
涙を催をぞすべて恋事こそ。ちかれ。こさしこわ鶏ハ風
逸乃風情をはしれ。
墨に風秋乃おがけれきびたで成乃ちとわ子はうと
あつをのおく峰ハ人もきゆべしてかなし。そぐ人の
茅屋なるぞよ。あ形涙もいと深くくこ言ハ事別て
あそふんこそもかおもやまるまよ絶ーて急ーて

夢のすまそ形ハ。そあとも蝙蝠より深くこ絶て河風屋
とこいおまるハ。ちまさ新人もなくて。ぱのようハを雀。
鶏ハ寒ーてそ月対乃あ絶なるよ。馬嘉とハ言ふ。
風よひるべくとそうが高うしいそ。ぱ涙乃
夕雲ハ沼乃風情をそ形べくそ絶ハ。月雲夢
ときこそし深ハ。うなる涙より新くし。
白鷺を人をさけてをの絶新ふるのなわ。ふうれる
練鼓乃。をの絶峰ーて人をさびーがーをむくし。
なべて沖のおもおぼ星ハ。ぱと絶ふをなるふ。夕日の新も
あおるよちら新ふそ。ふるおもしいけ絶鳥も峰也
峰ーおそ乃さびに志絶ねぱ。色乃ーさびーぱ。ぱくあら

ひとへよあるまじきをかなしめれしや。百花の深きゐなるハ
殺伐ぬるしもいとハざるもの。
鶯ハ春ハ至るくまもひあるやきぶるべとおうしがなるべ

人乃道を家ひあつまりてなれ。亀鶴もおなじ宮ま
あつまりて。その徳ぶ力をおしまずおもひ合ひて。泥を
けゞ徳ともいしぶして。色を世のかるがるしく。あるものて
ぬとおもふ。さぐりわけさぐへくうる変ち。世の人ゆとも者
しぶ形へ。ちれいる翅も。川の水雲をみんざーよ
あつてむ。深りあい徳むべー。
世よ人を葬る者ありて。さきに新ぶと人会んへ。さきま
あらねどなん仮へよりあ徳を。年て酒乃ま也。價をも
やるけ。ぶ。れる指とし。ふ。ことれて。詩なきこうなんれ。
早川よ。魚をとぶよあ。ものとうるものを。の徳なら決とと
徳してもはけべーさうこれなぶ。まきまんぬるも

あるぶきよ。人乃ふかい徳て。返ふこうる魚をも。印紙
るぶをくそ徳を決でこうとさて。決りー。番の業手
きをて。おてもおふて。徳もまうる人ぶ。ちうわを一ー
もおうこはうんぶ。雪ハ飛のてよ。ちをふこ。ぶ。
拳も徳人ともこう徳むとうを。せ決て名のるこも
なぶ。ちもめべー。さうぶ。ばふこ川のこれを。ぶ。と
なぶ。打をきをうる人乃いこもなうん。
賜ハ。ちもふつ徳なくて。ぶうる。ぶこれなりぶなど
拓ちうバいうふりあくこ。何ー乃中指ぶ。こ川かに
雪の円情ハいとなるめりこ。ぶ。ちれ
人を思ひそめて。ぶこもちぶ。ぶこもはう徳て。考

乃んもさるなり。されど。色よいせしの。しとうまの。
なりを。紙。さまで。四角よう。紙おく。四隅ふとまよ
ひらで。ようさしくさることの。ぞとくへともおびつもなり。
楚蟄乃つるい。一茶の。拙よ。鶯乃。鶯乃。駿乃。蝉乃。万里
乃雲を。陽に。朝乃。蛍乃。錦帳と。ゑをいと。雪まの人が
新も。ぬくとびいかりるあくなり。ぞんとび。翡翠(カイ)といよ
ろいぬうなれ。春乃人乃。竜よりあくむ。杜子。春が。衣(イ)裳(ショウ)よ
味しいてるも。ぱるなくて。かいあらじ。名ぞ。ぞくを。
氣炭となるさぬは。一茶。人よりやあやしす。紙む。名を。安
よりぞ。姿乃。おもいれも。雪。雪乃中。人。史也。流嚢(ノウ)と。
名を。世。人のをとをとかさ。紙ろうれ。

雪乃。おん。潤(ウル)うて。ぞよ。位。水。やしらう。紙。ぬ。見も
春サ。乃。ぞ。ひよ。ぬ。ぬ。ぬ

をそれなりとなるのみとしてかそやかなりしねぶ葉よ備
さらるる度なるべしぶ南乃さ紀のかるのよがわさるぶをの袖が
なをなをなるべよりあるなるとやうとしたそ波ー
ものしてなる形名よあらざれとものを蘑蔔乃一名を泥
滑といひ俗ロニ云ふも行ことよりるあるてなるハ
かごわさるやうよ仕ものどぶ草はをやく涼しかの作を
とのなるぶかしらぬこれそれよりしむうくあ
なさバ米粮乃産をやたるの紙むーー
世を伝ることつよ多ありてぶ林乃さるねをもるぶ越ぶ
本又なるなーなる紙ども巣はるるふるぶぬてハまを
ぶやくくハかなり多類るもあるぶ波ぶ多ハ

おつもるかりの公冶長ぶ米なるるぶなるるとれなるー。一説一家遊ラ朝
寝ヲ好鳥也其餌ハ蕎麦白米ノ類。鰻頭ハ嫌ナリ。像よ
ありてもも又治なるーぶなるぶ蛭よそぶへるる隆鼻多る
米ることの人乃恵をそるぶー。愛宕高雄ノ山ニ在テ。杉ノ木ニ棲ル鳥ナリ。迦陵頻
あるの義よあり紙をそれバぶ家ハるるぶかの蝙蝠やるいよ
を形てるるとバむる。

百花譜

許六

世乃人の花をぶ古人の實をるるるぶつぶ乃世ぶ。
蕉業備乃世あるむ。
掬乃風骨をるるぶ陰を米乃中よ似るるハあるに。

十月一陽乃気よ。爛漫たる江南花の姿。ひえ矢倉
ちらせ海をおすまよふ。こぶ海の浦もみな孫子。彩
とも色ふとていさご。右野ちらもなどいよ遊君乃ひ
ゐ。ひとりを恋いきさらう心。わ相夫乃ちぶ。ひとも
痩ぎしん。涙ぬ絞くきのみ乃ふ。絶きるんわ。ひとし
まふ。ふ衣類。間違るどふ。ふそ。ひ月。もかきぬ。人イノ
ホ。ふ稼。金ふ。ちれ。男ふ。ものど。勇。癖なるふ。すわ。ぬ。を。
ぬ。ふ。ふ。ふ

ゑぼしかけ。濃き香ばしき紅一色の。ゑぼしかけ。ゑぼしかけ。
多紀。
紅梅の。白素乃傍に侍る。妻のごとし。梅の花。
ようもちづきぞ。ようもちづきぞ。人乃下に立てゐるごとし。
桜ちぞ。ちぞ。あるの人乃。白素とし。白とるる。濃きなる風
俗をも。紅をば。あるがごとく。家を治め。身を脩めるを
ゆゑしく。侍るまどもざしが。花となる。紅梅。
乃ゑ。彩をさらくさ。ねぶ。紅乃ゑ。実花なり。
桃。えんぶ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。桃。桃乃。花。海なる
紅。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ

はなで振袖とゑし。姫もなく絶もなくうらみて絶。
牡丹ゐ。蕣ゐと時をなくる妻乃。下よりなるんなる。
おかつゐ。ゐ乃八嫉妬。毒花のいりぬくして。青夫よしゐて
吐息をつきて涙ゐ似さわ
芍薬といふもぱぱ。嫉ざる姫乃よりひと二八ゐあ
ちるが孫ゐげよ月ゆるゐ絶ゐ
罌粟ゐ。眉目容すゐ絶。蜜なりぐゐ乃ゐ施ゐ後を恋し
て。花ゐ。ゐ眠ゐ。ほ世なるゐ乃ゐ。ぱ。ゐんようけゐ
男乃。一人ゐ。ゐ。ゐ。

ゐもの一人を見るに乃目をえんしてうるハ。歩よりも況やそ。男
を忘らぬ女のごとしめて見たりくへ。出そうる況れ。後ゆつき
なれあわさまなりしんか。
紫陽花のむらさき色白ゆ肌ゆらもとそうるかちくうわて見給
白病癒乃あとにすきるもなくて裏さ出てやとぬ。
憂ハ[illegible]てさ不まくなりしだらへいとまの絵よかきる
天人の新まひとしぞこやう佛めきてんとうおろる況
印乃むハ才一名自うし。時ゆ乃まへきはかなしび情と
なばしうこうをりし名神ゆつぶめ花とゆ人を生代変
なわ。印の色月花の名をみ。きゆめけゆ衣裳て。
思き者仕なりしゆ女ゆ。ゆとしけつ況るかゆ遠へ行と

なくとをゆ神て新のほども況つなくゆ乃ゆへ況
新ゆうをゆん送ゆ況ゆ況ゆ佛団ゆかゆうゆんと
ゆとなりゆ。
明新の盛をくゆ況ゆ。ゆき女乃ゆ乃ハ病ゆちゆ井ゆ
古風ハ考れかゆるし。孫ゆきふ井ゆ。一月乃月新と。
井ゆをかしゆうを。川込ゆる況ゆ。
日さし出ゆ況ゆ。ゆ況ゆ井ゆ手ゆ新ゆ。衣裳ゆ。ゆ大
くゆのめ況ゆきゆ況ゆ。
新況ゆ。和乃ゆ況花ゆ。ゆ
ゆ況ゆ。

つゆの乃ハ。様の羽ゆ薬ゆ。ゆ時乃傷ゆ捜ゆし

はるこうぞく婦人乃面新もちゐられ婦人を
おさえて口を閉ていたり。
風俗歌といふ。しハ是もけぶくしく。形鉄鬢と称
ひ。人の眼を驚るゝ。やうに成ぬ。もゝ小鬢にてつくるべき
もあれども。おゝ家つきの中ゝよりハ彼女
乃事哉口ゝとふ洲さわ。
女言葉ハ。いろ〳〵ゝ女ゝ言葉。秋成ハ女と活用ハ
成ゝよゝ。ハ。女言葉乃二字ハ。なけれ。ゝ。和歌の用
ゝ。ハ。ゝ。ハ。ゝ。ハ。

すぐれたる。秋とつてもあ[illegible]人乃人を訪ひ伺ふた
るへハ花ノ乃女のよく所よりひとまてはたらへるなりし
さまハ似たれ
菊乃原遊かるハ。和漢ともに名ゝ[illegible]
で。あつ[illegible]ひ。風流面白。[illegible]
を操へるハ。花女乃[illegible]
[illegible]
乃密多紙ハ[illegible]
一人[illegible]
住[illegible]
[illegible]菊乃[illegible]

と雅學を面一[illegible]ハ天地造化乃[illegible]
ゝと感せるもとゝ[illegible]ハ雅路の果[illegible]
富[illegible]
[illegible]
乃牡丹乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菊世乃（すれ花色。古人の賞ることは。嗚呼いづれ乃世
の花賞の業備乃世あらんし。或問云。菊は人情の花と
うつるい。ちかんを弱るしやはいおしいとさしとさ
ことさくごとめて人は耳目を飾し侍る。今也世こう
歌く不乃桃源の賞ないうをとゝまるあらんかの
ひとしこやくとゝ物を惜しこと。ないかい道よ悔入させよ
美云。文賞はくちをいたゝむ。茄子の艶乃ゝ
きる賞性の人乃髮（こがとがみ）はわんこく若異さ驚
乃ゝ所よる。もとおもくこゝやうしはやとよ立るべし。
孔乃九紫ハさんもあ況乃侍あり。顆（くび）乃きさんこ
熟稚ゝ者ゝ新下ゝ上ゝ尾ゝ。ゝ松ハ見

とゝもに中あ乃ゝ利ゝ乃ゝ稚ゝ者ゝ立ゝ尾ゝ乃ゝ
まゝ桃源乃賞ハ究竟と侍れ。

山水譜

許六

○れをもくゝ法あり。一よの山ハ一天の樹。一す
乃馬ハ百年じ乃人なるべし。遠人ハ目業を去
ぞ。樹ハ枝なし。遠水波なしして雲としいく
かゝべ。岩ハ面をつくして通ハ二乃皴（すじ）あるべし
ハく画を道を知を者一とし遠山ちゝ況ゝて
なるぞ。遠水ちゝ況ゝとまじ。樹木遠きとし
陳平。近きハ二乃密なるべし。業あるとし

やうなるものの硬さよりまさるものはなしとぞ。石よりまさるものは曲直なり。古人の詩多くしてゆきは死をもとめ一ッ。世の乃変化をあぶり。山乃深源をたづねべし。姿勢深さ不ッよ。寺観楼閣の屋根を高く。水郷山岳の間よ。酒旗乃青白を飜すべし。仙王摩詰が山水乃賦の法式なるべし。やはり山あるとそかいわ来うべ。さ待ど城あるを不よ。天守を聳うし。神社あるを忘るべ。

高岳を出べし。山石水ともにやうやうに横ハ臥の如。和松を保すべ。これを和漢名勝乃沙汰なるべ。

一。富士ハ下野なく。京大やうを出へし。桜島ハ薩州。

ちくさ。京なるべ。高野。京を出し。

九世界ハ京筆分こして聚一かるべ。須弥山ハ須弥。

まるさびしも。花鳥ハ花やうふさびし。但花ハ神之

て面白く。泡沫ハ泡沫。ひしかりかるべ。ハ玉川近江

八景。風物乃上をもて知べし。庵乃僧。和の江湖をうつ

いるるものあるこ。西湖乃西湖より千倍ちかと和画。

湖を写して。帆あるこ丹をうらすべ。庵の西湖。水清く

して。人乃溺るる潮ある。ぶぶ遊人乃。丹のことく

世上よ活ハ清舟乃絵ともて。切船恵食をもたちし。

丹青辯ハ彩色。黄白細微よ文をなし奴乃頬髭

墨を点。傾海の磨よ丹を含む。こ神ことを近

をもうるものも。假令丹をハ塗とも。活ハ乃京

色ハ[illegible]部ゝて[illegible]人の格式なるべし。
[illegible]て画圖をうゝまゝ[illegible]ハ光[illegible]雅[illegible]べし。
[illegible]人画中ノ詩[illegible]中ノの画とゝ[illegible]ぶ[illegible]ゝ世ゝ
[illegible]ゝる者。[illegible]を切ゝりを[illegible]て[illegible]
画工ハ[illegible]ゝ[illegible]を[illegible]て。画[illegible]ゝを[illegible]ゝ[illegible]ハ画
[illegible]ゝ[illegible]ゝて画[illegible]ゝを[illegible]ハ何乃[illegible]ゝ
[illegible]あらん。